

# ふるさと奥尻通信

平成28年1月30日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

新春を迎えましたが、早くも月末。今年も残り11ヶ月。いやまだ11ヶ月ある？人生は長いようで短い。人間、何が出来るかよりも、何をするかだ。若さは武器だ。若いだけですばらしい。

## 特集 青年団の時代

昭和の時代、島内の各集落には10代後半から20代前半の男女が集まって組織された青年団がありました。最初、明治41年に奥尻青年会が、同43年に青苗青年会ができ、歴史がスタートしました。大正2年に薬師青年会が設立され、同5年に茶津交友会が青年会を経て青年団に改称、同10年には青苗沢青年団が設立されました。昭和15年より字名の変更があり、各集落名を冠した青年団として組織されていきました。戦時中は、地域の自治や自衛組織の一端に組み込まれました。戦後は、新生の青年団として組織され、地域間の親睦や活性化に取り組み、地区の原動力となって活躍しました。

☆奥尻連合青年団 設立	団員数	団長名	昭和40年4月時点
・奥尻青年団 明治41年1月1日	184名	齊藤 朗	
・青苗青年団 明治43年1月4日	50名	目谷正次	
・松江青年団 大正2年2月18日	40名	枝 公助	
・稲穂青年団 大正5年12月7日	16名	横田喜代治	
・球浦青年団 大正8年11月3日	11名	上野弘安	
・富里青年団 大正10年8月	13名	小林幹一	
・米岡青年団 昭和20年10月2日	8名	吉村一雄	
・赤石青年団 昭和21年1月3日	18名	坪谷 広	



奥尻青年団の演芸会 昭和30年代 青年団対抗の運動会 昭和30年代



青苗青年団の会則(昭和26年施行)によれば、「団員相互の親睦を計り自らの意志により自己の修養に努め社会人としての基礎を養い以て民主的郷土発展のために寄与する」ことを目的としていました。運営事業として、修養会、弁論会、演芸会、スポーツ大会などを行い、講習会では自治的知識の向上、政治的知識の向上などが図られました。団員は、青苗村(当時)の満14才~25才までの男女で、女性は独身者に限られました。中学生は準団員、定年を超えた人は賛助団員となりました。会費は1ヶ月5円でした。

そのころ青苗中学校に勤務した増川喜代蔵元教諭(昭和26年~36年)の回顧記を参考にしますと、青苗青年団では、昭和31年に団員数名で「うなばら楽団」という楽団(ドラム、アコーディオン2、バイオリン、ギター)を結成し、最初は楽譜も読めないような状態でしたが、練習の成果もあつてか演芸会は大成功に終わったそうです。すると、参加希望者が殺到し、メンバーも30名を超すなど、楽団は大人気となりました。その後トランペットを1万円で、クラリネットを2万1000円(7ヶ月月賦)で買ってそろえて体制が整い、楽団は大いに盛り上がり、奥尻地区まで遠征に出かけるほどでした。(「青苗中学校時代Ⅲ」『えさし草』第157号)

その後、青年団は全国組織にまとめられ、奥尻連合青年団、道内の支庁(現在の振興局)ごとの青年団、北海道青年団体協議会、日本青年団体協議会として組織化されていました。檜山管内の青年団活動が最も盛んだったのは昭和45年の頃で、昭和52年の青年体育大会では、奥尻町の女子ソフトボールチームが北海道代表として東京の全国大会へ出場するなどしています。(参考:「こんにちは教育委員です」No.101今金町教委)



稲穂青年団 演芸会の後 昭和20年代後半



球浦青年団 運動会出場記念 昭和20年代



富里・米岡青年団 運動会出場記念 昭和23年



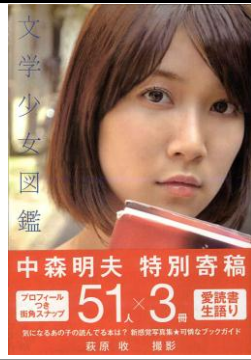
青苗青年団 公民館落成記念 昭和29年



神威脇青年団 全島青年団運動会出場記念 昭和20年代



昭和30年代前半頃の球浦青年団による四箇散米舞(しかさごまい)の様子です。この舞は、松前神楽の演目の一つで、昭和30年頃に奥津神社の神主となった常磐井宮司が伝えたものと考えられ、球浦青年団が最初に取り組みました。その後、児童が演じるようになり、神社祭りや産業祭りなどで披露され、町民に親しまれました。行列には笛と太鼓が付きましたが、中でも笛の名手で知られた小山内権三郎さんが毎年、各地の神社祭りで引っ張りだこでした。今ではテープで流す場合もあり、名手の後継者を育てられなかったことが悔やまれます。



学芸員オスマエの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

文学少女図鑑  
萩原 収

他人が読んでいる本って、なんだか気になるよ。あれ、あのひとはどんな趣味なんだろうな？っていう疑問を、読んでいる本の題名から想像してしまう…。なんだかキモチワルイと言われそうですが、そういうあなたも気になるはず。間違いなし。ま、とりあえず、こんな女性がこんな本を読んでいるんだなあ、と。本選びの参考にしてください。

月刊 奥尻のつり 1月号

年末は長浜入り口で3キロを超えるサクラマスが釣れたそう、その後も島のアングラータちは足しげく通っています。年明けは少し魚影が薄くなったようで、歓喜の声は少なめです。そもそもマス釣りの主戦場は西海岸の無縁島周辺の浜ですが、早朝から行くには移動距離があり、入りやすい東海岸に集まる傾向にあります。マスは小魚を追っているの、追い込みやすい小さな湾やワンドに集まる傾向にあります。先に飛距離のある重たいジグで沖にいるマスを手前におびき寄せ、次により魚に近い形状のミノーに取り替えてマスに喰わせるんだそうです。文字にすると簡単ですが、実際やってみると非常に繊細で難しいものです。潮の流れや海中の岩礁や地形の様子をさぐりながら、魚と駆け引きする必要があります。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つし1ヶ月 第5回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より  
いなやる来一いうたに人思もむお家さか天だ  
※ていは。た鳥たん。豆来っの困、客でんし候っ上  
クいのり母。賊のとへのてでる。さはがは陸  
ダるか部と霧つで働今切いや、だどん宿一置曇がし  
り。ボ落兄はけ、い日りたっおる言が屋人いり、た  
： ツの三尚勉急てもか。て客うっ来て泊てだ尚の  
南、人人も強いや又け飯くさどててはま家つもは  
風次来と深一でる言にをるん思来一なつた風は三時  
の回て俺くを飯ぞ一行食のはるのいつ帰。は五  
こに語島でな書をしてくつた宿ての晩がいつ船ク五  
とつりを五でない喰と誰とて。屋泊でた、たたをダ十  
。づ乍し人ててっ考よ言か今だめ、の何。ら海リ五  
くらまだ来島てえりわらもとて家。時俺おにで分  
働は。に。てもれ島一やでもの客浮、

ご嘆はが場にへ四日と才は  
もく、降がよ二日か心した年  
で町もつオリ五にら配プし明  
す民うて、cmは毎さンてけ  
ねも雪喜プ十、初日れは今て  
。いはぶン五。め降まい期も  
てたひし日連て雪しつ、の雪  
、くとまか日のがたにスが少  
、悲さもしらのドあがなキ  
喜んあたス雪カリ、る、な  
こだれ。キ踏雪、十の場、  
もと雪、み、十二か、

待望?の雪来る!



しめ縄に挟まれた昆布

らしてみン垂守う合あ景すめ町  
れたは込ブへるこ、るで。飾内新  
ながどん、し家と日よす日りの春  
い、くですでも本うが本や家を  
よ最の垂ル、はあ海で、全し々迎  
う近家らメと、り沿す色国めで  
ででし、ユ燃、岸。々で縄はるに  
すは作ま松ズつ古の奥な見を玄  
。あつすのりたい港尻地ら飾関  
まて。葉ハ縄伝町の域れり先  
りいかを、に統と場性るまに  
見まつ挟コ紙をいも光し、

コトワとスルメ

むのえく音衰こ破マれたで  
毎指な痴えこしチで。足連日  
日(我つを、教たヤも我腰の  
で第がてり生年こリサが悲  
。九家きカまでとでツが鳴  
号血よりな力あ日、情を  
参行う、ががつ一部け上  
(照不でしらすた五出な  
をの。れ運かに、km、し  
揉足冷な動り。走マこみ

新米之記録(編集後記)

も数他に、らも島八億までとは、奥  
の年、に、四四し。大前総支二十七  
一前ホ大最檜三七七。変年額所七  
はよツき低山〇二。変年額所七  
見りケくだ管万六主。徹比五管年  
込激が下つ内円万品し五億内十二  
め減五回た全減円目い千五の二  
まし六前体ととの数万二魚月末  
、三結年でな、イ字円二種  
。一万果度見り、前カとの八取  
。流円にをて、年はな減万扱  
れと。さ。渡比一り額円額の

平成二十七年奥尻景況



災害復興植樹記念テレカ 平成7年